

令和5年度の教育活動等に関する学校評価

教育目標：1)保育内容の充実、2)大学・地域との連携、3)幼稚園運営の強化

九州女子大学附属自由ヶ丘幼稚園

No.	基本目標	[業務事業] 具体的施策	今年度の取組に対する自己評価	学校関係者の評価
1	保育内容の充実	[幼稚園教育の質の向上] P D C Aサイクルの確立 全体研修・個人研修の推進 幼小連携の推進	月案・週案を提出し、評価をすることでP D C Aサイクルを確立した。全体研修は姉妹園との合同研修でこども基本法が施行されたと言うことで「こども基本法施行から子どもの育みを問う」と題して県の教育庁から講師を招き学んだ。個人研修は自分の課題に沿ったリモート研修また会場での研修を行った。小学校交流については、コロナ禍が明け小学校訪問することができた。春には指導要録を通して実際に小学校に担任が出向いて一人ひとりの様子を伝えていく。	子ども達の為に研修で学んでいるところは素晴らしいと思うが学んでいる内容等が保護者に伝わらないので、月の便りなどで知らせはどうか。またその学びを基に子育てサロンなどで保護者の学びにもつなげて欲しい。
		[園の特色を生かした教育課程の編成] 学年会議の開催 次年度カリキュラムの決定	毎週1回学年会議を行い、前週の評価・次週の計画について話し合い保育計画を立てた。学期末毎に教育課程の見直しをし、訂正・加筆を加え現在の園児の姿に沿ったものに作りなおしていった。年度末には次年度カリキュラムを決定する為に1年分の教育課程の見直しを行う。	先生達が細かく計画を立てて保育に臨んでいる姿が伺える。どの様に考えて保育をしているかを保護者に発信して欲しい。
3	大学・地域との連携	[学園設置大学との連携の充実] 体操教室・リトミックの実施 学生との連携の実施 大学教員とのコラボ研究の実施	体操教室・リトミックは毎週1回行った。学生との連携では、女子大からボランティアやバイトを雇い保育の手助けとなった。また、共立大学においては地域創造学科から預かり保育に学生を招き、保護者の迎えを待つ園児達に楽しさを与えてもらった。コラボ研究では「幼児の表現・感性・直接体験」をキーワードにカンガルーの絵を描き実際に見て触れた後とどの様に表現が変わってくるかと言うことを行った。今後の絵画指導に活かしていきたい。オープンキャンパスでは子ども達が盆踊りを披露し、夏祭りを楽しむ姿を見てもらい、附属大学への入学志願者へ一役かった。	保育の中に入っている体操教室やリトミックのお陰で小学校に入った時の達成度が違う。保育所では学べない様なものが幼稚園にあると思う。附属の強みが生かされていると思う。研究の内容を知りたいので発信して欲しい。
		[地域との交流の推進] 田植え・稲刈りの実施 餅つきの実施 八幡図書館折尾分館との交流 地域内・姉妹園との交流	田植え・稲刈りを行いその後のおにぎりパーティーにまでつながったことで地域との交流をし、食育することもできた。また、コロナ禍で数年できていなかった餅つきを再開したが、地域との交流にまでいかなかったので次年度には地域につなげていきたい。八幡図書館折尾分館からは、未就園児教室に出向いてもらい絵本の読み聞かせをしてもらった。季節に沿った絵本を選んでもらい、未就園児教室に絵本の楽しさを伝えてもらった。地域内小規模保育園が訪問し、幼稚園の体験をした。姉妹園交流として互いの園を訪問し、園児同士で交流をした。	田植えや稲刈り・餅つき等の地域と交流できるような行事を長年継続しているところが素晴らしいと思う。また今後同じ行事を継続していくにあたり、変化をつけて子ども達が楽しく活動できるようにして欲しい。
5		[園児募集・広報の強化] HPでの積極的な情報発信 未就園児教室の充実 預かり保育・子育て相談の実施	HPは月に一度の更新を目指し幼稚園の様子を発信してきた。Instagramを使用して日々の保育の様子も発信できた。未就園児教室は、コロナ禍で減っていた参加者が徐々に増えてきた。内容は昨年度の反省から見直し、より充実した物になるよう努力した。入園を控え様々な心配事や子どもの発達についての相談を常に受けて来た。また、在園児の保護者からの子育て相談も常に受け特に要支援児については、都度保護者からの聞き取りをしながら関係施設につないできた。	InstagramやHPで子ども達の姿がわかるのが良いと思う。これからも子ども達の姿を積極的に発信して欲しい。また、子育てについての相談は困っている保護者には助かると思うので、継続的に相談にのって欲しい。
6	幼稚園運営の強化	[安全対策の徹底] 運転員の研修の実施 園児の交通安全教室の実施 戸外活動・災害時の安全対策 遊具の点検・建物の点検 職員に対する危機管理の研修	園児の火災や地震を想定した避難訓練や、不審者対策での防犯訓練を定期的に行った。年長組は小学校登校を見据えドライビングスクールでの交通安全教室を行った。小さい組に関しては防犯訓練と一緒に折尾警察署交通課の方からの交通安全教室を行った。戸外活動では常に安全に気を付けながら何度も人数確認を行いながら取り組んだ。建物の点検は常に行い、不具合があるところがあれば管財施設課を通して業者に点検・修理をしてもらった。職員に対しての危機管理研修は、他の幼稚園・保育園の危険な事故等を我が身に置き換えた研修をその都度行った。運転員の研修についてはドライビングスクールで実技・講習共に丸一日かけて行った。	コロナ禍で行事が縮小されたり、休園があったりした時の事を思えばコロナが明け行事も戻り日々の保育からも子ども達が活発になった事が伺える。子ども達が元気に行って元気に帰って来てくれる事で安全に幼稚園生活を送っている事が伺える。

